キャラクター名: 破魔　徹

プレイヤー名:

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	UGNエージェント
オプショナル		年齢	29	性別	男
覚醒	探求	衝動	殺戮	初期侵食率	40 %
出自	父親の不在	経験	多忙	邂逅	伊庭　宗一

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	0	0			6
感覚	0	1	0			1
精神	0	0	0	1		1
社会	2	0	0			2

HP	33
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
破壊の爪	白兵	6r	1	8＋Lv		
イフリートの腕	白兵	6r		6		「炎神の怒り」獲得、基本浸食値＋8

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
【98】遺産継承者/レガシー	P	N		
伊庭　宗一	P 連帯感	N 嫌悪		
新庄　梢	P 好奇心	N 脅威		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
完全獣化	4	6	マイナー	至近	自身	自動	ー	
効果：	シーン間肉体判定＋（Lv＋2）D							
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動	ー	
効果：	素手変更							
神獣撃	5	2	メジャー	武器	単体	対決	80%	
効果：	攻撃＋（Lv＋2）D、完全獣化解除							
フルパワーアタック	5	4	セット	至近	自身	自動	80%	
効果：	攻撃力＋Lv×5、行動値0							
コンセントレイト：キュマイラ	2	2	メジャー	ー	ー	ー	ー	
効果：	C値－Lv							
炎神の怒り	1	3	メジャー	ー	ー	ー	ー	
効果：	肉体判定＋(Lv＋1)D、HP－3							
怪獣撃	5	6	メジャー	視界	単体	対決	100%	
効果：	射程を視界に変更、攻撃力＋LvD、1回/1S							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

UGNに所属する戦闘専門のエージェント。とある妙齢の女性から与えられた「イフリートの腕」によって偶然オーヴァードに目覚め、その時から「強さ」を求め闘争に明け暮れるバトルジャンキーとなり、UGNに所属する前はフリーのイリーガルとして裏社会のファイトクラブで毎日戦闘に明け暮れていた。UGNに所属したのももっと「凶悪」でもっと「最強」に近しいヤツと巡り合える可能性が幾分か増えるからである。破滅願望であるのかといわんばかりに任務に臨み、天変地異を起こしかねないような厄災レベル級のジャームと死闘に明け暮れることを心待ちにしていることが彼のコードネームの由来となっている。

一言でいうならば「バトルジャンキー」という性格であるのだが、その度合いは異常といってもいい。脅威が見つかったと聞けばどこでも駆け付け、強いとわかればどんな奴にでも決闘を挑み、成長する機会に恵まれればそのすべてをエフェクトの強化につぎ込み、どのような絆も目の前の強敵を乗り越えるために立ち上がるの糧とする。ジャーム化を一切恐れていないその様はある種の狂気を感じさせさえする。それ以外のことには非常に無頓着であり、UGNからの任務で、他のエージェントと協力することになった際も、強者と認めるまでは不躾で不遜な態度を取り続け、戦闘以外をめんどくさがりそのことを指摘されると軽口をたたくなど、その態度は決して褒められたものではない。しかし、その根は単純そのものであるうえ、なんだかんだ言いつつも最低限の仕事をこなしたり、他人の失敗を無言でカバーするなど面倒見がよかったりもするため、憎めないヤツだ、という評も少なくない。よって彼の性格は九分九厘の闘争心と、欠片ばかりの協調性で構成されているといえるだろう。